

⑭ 北条時頼ゆかりの寺 最明寺



金子根岸上にある最明寺は、京都東寺
真言宗の名刹で、かつては松田山の山頂近
くにありました。

この寺は、鎌倉時代の承久3（1221）
年頃、浄蓮房源延という僧侶が建立しまし
た。



北条時頼坐像

源延は、源頼朝に仕えた伊豆の豪族
加藤景員の三男、加藤左エ門尉実長という
武将です。修業を重ね、学成るに及び伊豆山
と鎌倉との間を往来して大いに浄土の法を説
いたといわれます。いまでも伊豆に浄蓮の滝
という名が残っています。

その後、北条時頼が灯明料として寺領1
500石を寄進して松田の最明寺（西明寺）
は栄えましたが、鎌倉幕府が滅亡すると寺領
はかすめとられ、そのうえ人馬の通行が困難
なため、文明元（1469）年頃に現在の金
子に移るようになったといわれています。



善光寺如来堂

金子の最明寺は、別名相模善光寺とも呼ばれています。それは信濃（長野）の善光寺如来の分身、一光三尊善光寺如来をおまつりしているからです。

最明寺の開祖、浄蓮上人（源延）は、美濃の法住寺で一心に修行をしました。また、源延は、信濃善光寺の如来を深く信仰し、何度となく参詣していたといわれています。



善光寺如来堂

その後、源延は、伊豆山走湯権現の別当※となり、伊豆山と鎌倉との間を往来して大いに浄土の法を説きました。

源延はこのとき、夢の中で「阿弥陀の形を鑄造し人々の苦を救ってあげなさい」とお告げを受け、信濃善光寺へ行き、如来を図写し、如来の分身として金銅の仏像を鑄造しました。そして、松田郷最明寺（西明寺）に承久3（1221）年に安置しました。

善光寺如来は、その後、大井町金子に移され、相模善光寺として今なお最明寺の善光寺如来堂にまつられております。寺の縁起によれば、元禄13（1700）年に善光寺如来を開帳してから後、十三年目の辰年に開帳することにして現在に至っています。

※別当…寺務を統括する長官に相当する僧職

往生要集

最明寺に所蔵されている往生要集は、現存するものとしては最古の写本で、大変貴重であり、国の重要文化財に指定されています。

往生要集は、上・中・下三巻からなる平安時代中頃の仏教書で、比叡山の天台宗恵心院の僧・源信が、寛和元（984）年に完成した全10章におよぶ経論集（仏教の教理をしるした本）です。

日本浄土教の基礎を確立した金字塔といつても過言ではなく、極楽に往生するためにはただ「念仏の一門」あるのみという信念から多数の経論を引用しており、念仏実践の指南書とされてきました。



国指定重要文化財 往生要集
平成元年 6 月 12 日指定